

9.4 生物・生態系

9.4.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.4-1 に示すとおりである。

表 9.4-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、図 9.4-1 に示す計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア. 陸上植物の状況

調査方法は、表 9.4-2 に示すとおりである。

表 9.4-2 陸上植物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺の土地利用状況を踏まえ、会場エリア内とした。 (図 9.4-1 参照)	・植物相 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・植物群落 夏の二季とした。	・植物相 任意観察法 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ. 陸上動物の状況

調査方法は、表 9.4-3 に示すとおりである。

表 9.4-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺の土地利用状況を踏まえ、会場エリア内及び以下の地点とした。 (図 9.4-1 参照) ・哺乳類 1 地点とした。 ・鳥類 2 定点、1 ラインとした。 ・昆虫類(トラップ) 1 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・両生類・は虫類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・昆虫類 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・クモ類 春、初夏、夏、秋の四季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法、夜間調査(バットディテクター)による。 ・鳥類 任意観察法、定点観察法、ラインセンサス法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意観察法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法による。 ・クモ類 任意観察法による。



©NTT空間情報株式会社

凡例

- 計画地
- 会場エリア
- 市町界
- 私鉄
- 任意観察法調査範囲
- 哺乳類トラップ調査地点 (No.1)
- 鳥類定点調査地点 (No.1~2)
- 鳥類ラインセンサス (L-1)
- 昆虫類トラップ調査地点 (No.1)



Scale 1:15,000



図 9.4-1 生物・生態系調査地点

出典：NTT 空間基盤情報

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」(国土地理院)、「土地条件図」(平成 25 年 8 月 国土地理院)の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」(平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター)の既存資料の整理によった。また、現地調査により、会場エリア内の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、アメダス府中観測所の気象データを整理・解析した。

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 24 年多摩・島しょ地域」(平成 26 年 5 月 東京都都市整備局)、「調布市都市計画図」(平成 25 年 3 月 調布市)等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号)等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」(平成 27 年 3 月 東京都)、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成 26 年 5 月 東京都)の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.4-4 に示す時期に実施した。

表 9.4-4 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
武蔵野の森総合スポーツ施設、東京スタジアム、武蔵野の森公園	陸上植物の状況	植物相	春季 : 平成 26 年 5 月 2 日 初夏季 : 平成 26 年 5 月 19 日 夏季 : 平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日、12 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 8 日
		植物群落	夏季 : 平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日
	陸上動物の状況	哺乳類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日、26 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 22 日、23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12 日、19~20 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		鳥類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 1 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 4 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 8 日 秋季 : 平成 26 年 9 月 26 日
		は虫類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12 日、19 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 23 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		両生類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12, 19 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 23 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		昆虫類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日、26 日 春季 : 平成 26 年 5 月 19~20 日、23 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 26~27 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 14 日、15 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 9、10 日
		クモ類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 春季 : 平成 26 年 5 月 19~20 日、23 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 26~27 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 14 日、15 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 9 日、10 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-5(1)～(5)に示すとおり 87 科 356 種の植物が確認された。

調査範囲は図 9.4-1 (p126 参照) に示すとおりであり、計画地とその周辺地域として東京スタジアム (味の素スタジアム) 及び西競技場の敷地内とした。陸上植物の確認種は主に敷地内に植栽された種であった。

表 9.4-5(1) 植物確認種

No.	科名	和名
1	トクサ科	スギナ
2	オシダ科	<i>Cyrtomium</i> 属
3	メシダ科	イヌワラビ
4	イチョウ科	イチョウ
5	マツ科	ヒマラヤスギ
6		アカマツ
7	ヒノキ科	オウゴンクジャクヒバ
8		カイヅカイブキ
9		コノテガシワ
10	マキ科	ナギ
11	ヤマモモ科	ヤマモモ
12	ヤナギ科	セイヨウハコヤナギ
13		シダレヤナギ
14	カバノキ科	アカシデ
15		イヌシデ
16	ブナ科	クリ
17		スダジイ
18		マテバシイ
19		クヌギ
20		アラカシ
21		シラカシ
22		コナラ
23	ニレ科	ムクノキ
24		エノキ
25		アキニレ
26		ケヤキ
27	クワ科	ヒメコウゾ
28		クワクサ
29		イヌビワ
30		カナムグラ
31		ヤマグワ
32	ビャクダン科	カナビキソウ
33	タデ科	ミズヒキ
34		オオイヌタデ
35		イヌタデ
36		イシミカワ
37		ママコノシリヌグイ
38		ハイミチヤナギ
39		ミチヤナギ
40		イタドリ
41		スイバ
42		アレチギシギシ
43		エゾノギシギシ
44	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ
45	スベリヒユ科	スベリヒユ
46	ナデシコ科	ノミノツツリ
47		オランダミミナグサ
48		ミミナグサ
49		ツメクサ
50		ウシハコベ
51		コハコベ
52		ミドリハコベ
53	アカザ科	シロザ
54		コアカザ
55	ヒユ科	ヒカゲイノコズチ
56		ヒナタイノコズチ
57		ヤナギイノコズチ
58		ホナガイヌビユ
59	モクレン科	ユリノキ

表 9.4-5(2) 植物確認種

No.	科名	和名
60	モクレン科	タイサンボク
61		モクレン
62		コブシ
63	クスノキ科	クスノキ
64		ヤブニッケイ
65		ヤマコウバシ
66		ダンコウバイ
67		タブノキ
68		シロダモ
69	カツラ科	カツラ
70	メギ科	ホソバヒイラギナンテン
71		ナンテン
72	アケビ科	アケビ
73		ゴヨウアケビ
74	ドクダミ科	ドクダミ
75	ツバキ科	カンツバキ
76		ヤブツバキ
77		サザンカ
78		ハマヒサカキ
79		ヒサカキ
80		ナツツバキ
81		モッコク
82	オトギリソウ科	オトギリソウ
83	ケシ科	ムラサキケマン
84		タケニグサ
85		ナガミヒナゲシ
86	アブラナ科	ナズナ
87		ミチダネツケバナ
88		イヌガラシ
89	スズカケノキ科	アメリカスズカケノキ
90	マンサク科	マンサク
91	ユキノシタ科	ウツギ
92		ヒメウツギ
93		アジサイ
94		ノリウツギ
95		バイカウツギ
96	トベラ科	トベラ
97	バラ科	ヘビイチゴ
98		ビワ
99		ヤマブキ
100		ヤエヤマブキ
101		カナメモチ
102		カマツカ
103		ヤマザクラ
104		ウメ
105		ソメイヨシノ
106		カザンデマリ
107		シャリンバイ
108		ノイバラ
109		クサイチゴ
110		ニガイチゴ
111		ナワシロイチゴ
112	カジイチゴ	
113	コデマリ	
114	シモツケ	
115	ユキヤナギ	
116	マメ科	ネムノキ
117		ヤブマメ
118		ハナズオウ
119		アレチヌスビトハギ
120		ツルマメ
121		ヤハズソウ
122		メドハギ
123		ハイメドハギ
124		ニシキハギ
125		ネコハギ
126		ミヤギノハギ
127		マキエハギ
128		クズ
129		ハリエンジュ
130		トゲナシハリエンジュ
131		コメツブツメクサ
132		ムラサキツメクサ
133		シロツメクサ
134		ヤハズエンドウ
135		スズメノエンドウ
136	ヤブツルアズキ	

表 9.4-5(3) 植物確認種

No.	科名	和名
137	カタバミ科	イモカタバミ
138		カタバミ
139		アカカタバミ
140		ムラサキカタバミ
141		オッタチカタバミ
142	フウロソウ科	アメリカフウロ
143		ゲンノショウコ
144	トウダイグサ科	エノキグサ
145		トウダイグサ
146		オオニシキソウ
147		ニシキソウ
148		コニシキソウ
149		アカメガシワ
150		ナンキンハゼ
151	ミカン科	カラスザンショウ
152		イヌザンショウ
153	ニガキ科	シンジュ
154	センダン科	センダン
155	ウルシ科	ヌルデ
156	カエデ科	トウカエデ
157		メグスリノキ
158		イロハモミジ
159	アワブキ科	アワブキ
160	モチノキ科	イヌツゲ
161		モチノキ
162		ウメモドキ
163	ニシキギ科	ツルウメモドキ
164		ニシキギ
165		コマユミ
166		マサキ
167		マユミ
168	ミツバウツギ科	ゴンズイ
169		ミツバウツギ
170	ブドウ科	ノブドウ
171		ヤブガラシ
172		ツタ
173		エビヅル
174	アオイ科	ムクゲ
175	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ
176	グミ科	ツルグミ
177	キブシ科	キブシ
178	ミソハギ科	サルスベリ
179	アカバナ科	メマツヨイグサ
180		コマツヨイグサ
181		ユウゲショウ
182	ミズキ科	アオキ
183		アメリカヤマボウシ
184		ヤマボウシ
185		ミズキ
186		クマノミズキ
187	ウコギ科	コシアブラ
188		カクレミノ
189		ヤツデ
190		キツタ
191	セリ科	ノチドメ
192		オヤブジラミ
193	ツツジ科	ドウダンツツジ
194		アセビ
195		ムラサキヤシオ
196		サツキ
197		ヤマツツジ
198		オオムラサキ
199		ナツハゼ
200	サクラソウ科	オカトラノオ
201		ヌマトラノオ
202		コナスビ
203	エゴノキ科	エゴノキ
204		ハクウンボク
205	ハイノキ科	サワフタギ
206	モクセイ科	シナレンギョウ
207		ヤマトアオダモ
208		ネズミモチ
209		トウネズミモチ
210		イボタノキ
211		キンモクセイ
212		ヒイラギ
213		ヒイラギモクセイ

表 9.4-5(4) 植物確認種

No.	科名	和名
214	キョウチクトウ科	キョウチクトウ
215		テイカカズラ
216	ガガイモ科	ガガイモ
217	アカネ科	ヒメヨツバムグラ
218		ヤエムグラ
219		クチナシ
220		コクチナシ
221		ヘクソカズラ
222		ハクチョウゲ
223	ヒルガオ科	コヒルガオ
224		ヒルガオ
225	ムラサキ科	キュウリグサ
226	クマツヅラ科	コムラサキ
227		ムラサキシキブ
228	シソ科	ホトケノザ
229		ヒメオドリコソウ
230		イヌコウジュ
231		アオジソ
232		ウツボグサ
233	ナス科	ワルナスビ
234		ヒヨドリジョウゴ
235		アメリカイヌホオズキ
236	ゴマノハグサ科	マツバウンラン
237		ウリクサ
238		トキワハゼ
239		タチイヌノフグリ
240		オオイヌノフグリ
241	キツネノマゴ科	キツネノマゴ
242	ハマウツボ科	ヤセウツボ
243	オオバコ科	オオバコ
244		ヘラオオバコ
245		タチオオバコ
246	スイカズラ科	ハナツクバネウツギ
247		スイカズラ
248		ニワトコ
249		ガマズミ
250		サンゴジュ
251		タニウツギ
252	キキョウ科	キキョウソウ
253	キク科	ブタクサ
254		オオブタクサ
255		ヨモギ
256		コセンダングサ
257		アメリカオニアザミ
258		アレチノギク
259		オオアレチノギク
260		ベニバナボロギク
261		ダンドボロギク
262		ヒメムカシヨモギ
263		ハルジオン
264		ハキダメギク
265		ハハコグサ
266		チチコグサ
267		チチコグサモドキ
268		ウスベニチチコグサ
269		ウラジロチチコグサ
270		キクイモ
271		キツネアザミ
272		ブタナ
273		イワニガナ
274		アキノノゲシ
275		ヤブタピラコ
276		コウゾリナ
277		ノボロギク
278		セイタカアワダチソウ
279		オニノゲシ
280		ノゲシ
281		ヒメジョオン
282		ヤナギバヒメジョオン
283		アカミタンポポ
284		セイヨウタンポポ
285		カントウタンポポ
286		オニタピラコ
287	ユリ科	ヤブラン
288		ジャノヒゲ
289		オオバジャノヒゲ
290		キチジョウソウ

表 9.4-5(5) 植物確認種

No.	科名	和名
291	ヤマノイモ科	ヤマノイモ
292	アヤメ科	シヤガ
293		ニワゼキショウ
294		オオニワゼキショウ
295	イグサ科	クサイ
296		スズメノヤリ
297	ツユクサ科	ツユクサ
298		ヤブミョウガ
299	イネ科	アオカモジグサ
300		コヌカグサ
301		ヌカボ
302		メリケンカルカヤ
303		ハルガヤ
304		コブナグサ
305		トダシバ
306		コバンソウ
307		イヌムギ
308		スズメノチャヒキ
309		ギョウギシバ
310		カモガヤ
311		メヒシバ
312		コメヒシバ
313		アキメヒシバ
314		イヌビエ
315		オヒシバ
316		カゼクサ
317		ニワホコリ
318		コスズメガヤ
319		オニウシノケグサ
320		ウシノシツペイ
321		ケナシチガヤ
322		チガヤ
323		ネズミムギ
324		ヒメアシボソ
325		オギ
326		ススキ
327		ネズミガヤ
328		コネズミガヤ
329		ケチヂミザサ
330		コチヂミザサ
331		シマスズメノヒエ
332		チカラシバ
333		スズメノカタビラ
334		オオイチゴツナギ
335		ナガハグサ
336	イチゴツナギ	
337	オオスズメノカタビラ	
338	ウシクサ	
339	アキノエノコログサ	
340	キンエノコロ	
341	エノコログサ	
342	ムラサキエノコロ	
343	セイバンモロコシ	
344	ネズミノオ	
345	カニツリグサ	
346	シバ	
347	コウライシバ	
348	ヤシ科	シュロ
349	カヤツリグサ科	マスクサ
350		アオスゲ
351		ヒメクグ
352		コゴメガヤツリ
353		セイタカハマスゲ
354		カヤツリグサ
355		ハマスゲ
356	ラン科	キンラン
計	87 科	356 種

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される植物種として抽出した結果、表 9.4-6 に示す 5 種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表 9.4-7 に示すとおりである。

表 9.4-6 注目される植物種

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	ヒユ科	ヤナギイノコズチ				VU
2	マメ科	マキエハギ				VU
3	トウダイグサ科	ニシキソウ				NT
4	アカネ科	ハクチョウゲ			EN	
5	ラン科	キンラン			VU	VU
計	5 科	5 種	0 種	0 種	2 種	4 種

注) 選定基準

①文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、東京都文化財保護条例(昭和 51 年東京都条例第 25 号)、調布市文化財保護条例(平成 18 年調布市条例第 46 号)に基づく天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種

③「レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I(維管束植物))」(平成 24 年 8 月 環境省)の記載種

EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

④「レッドデータブック東京 2013(本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)の北多摩に該当する掲載種
EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

表 9.4-7 注目される植物の生態及び確認状況

<p>【種名】：ヤナギイノコズチ 【分布】：本州（関東地方以西）～九州、中国（本土・台湾）に分布する。 【形態】：山地の木陰にはえる多年草で、花期は8～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床における2地点で各1個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：マキエハギ 【分布】：本州～琉球、朝鮮・中国（本土・台湾）に分布する。 【形態】：丘陵地や低山地の日当たりのよい乾いた道ばたや岩地などの草原にはえる半低木で、花期は8～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床の林縁部で5個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ニシキソウ 【分布】：本州～九州、東アジアからヨーロッパにかけて温帯に広く分布する。 【形態】：畑地や路傍にふつうにみられる1年生の雑草で、花期は6～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床の林縁部で5個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ハクチョウゲ 【分布】：中国原産でよく栽培され、長崎県では野生化している。 【形態】：常緑小低木で、花期は5～7月。 【確認状況】：計画地周辺の駐車場、歩道脇で確認された。</p>	 <p>出典：「日本の野生植物 木本Ⅱ」</p>
<p>【種名】：キンラン 【分布】：本州～九州、朝鮮・中国に分布する。 【形態】：山や丘陵地の疎林下にはえ、花期は4～6月。 【確認状況】：計画地周辺の林床で3個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」（平成元年2月（株）平凡社）、「日本の野生植物 木本Ⅱ」（平成元年2月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅰ」（昭和57年1月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅱ」（昭和57年3月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅲ」（昭和56年10月（株）平凡社）による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等を区分した結果、表 9.4-8 に示すとおり草本群落が 4 区分、木本群落は 5 区分、公園・グラウンド等のその他区分が 4 区分、計 13 区分に分類された。

表 9.4-8 植生区分

植生区分	群落名	概要
多年生草本群落	ヨモギ-メドハギ群落	ヨモギやメドハギが優占するほか、ムラサキツメクサ、セイタカアワダチソウ、ヤナギハナガサ、チガヤ、ギョウギシバ等が混生する。
単子葉草本群落	オギ群落	ギが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、クズ等が混生する。
単子葉草本群落	シバ群落	シバが優占する低茎草本群落で、シロツメクサやオオバコ、ヘラオオバコ、ヒメチドメ等が混生する。
	チガヤ群落	チガヤが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ムラサキツメクサ、ヤブガラシ等が混生する。
木本群落	植栽樹林群（常緑広葉）	スダジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（落葉広葉）	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（常緑針葉）	クロマツやカイヅカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（落葉針葉）	ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（混交）	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。
その他	公園・グラウンド	土地利用が小規模な児童公園やグラウンドのもの。
	人工裸地	土地被覆が人工裸地のもの。
	人工構造物	土地利用が建築物等のもの。
	道路	土地利用が道路のもの。

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-9 に示すとおり 2 目 2 科 2 種の哺乳類が確認された。

調査範囲は図 9.4-1 (p126 参照) に示すとおりであり、計画地とその周辺地域として東京スタジアム (味の素スタジアム) 及び西競技場の敷地内とした。計画地周辺の公園の草地や植栽箇所の林床でアズマモグラの痕跡が確認され、夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認された。

表 9.4-9 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ目	モグラ科	アズマモグラ	○	○	○	○
2	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科			○	○
計	2 目	2 科	2 種	1 種	1 種	2 種	2 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト (絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類)」(平成 24 年 8 月 環境省) の記載種及び「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) に該当する掲載種は該当しなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-10 に示すとおり 5 目 19 科 31 種の鳥類が確認された。

調査範囲は図 9.4-1 (p126 参照) に示すとおりであり、計画地とその周辺地域として東京スタジアム (味の素スタジアム) 及び西競技場の敷地内とした。確認された鳥類は、陸鳥ではコゲラ、オナガ、シジュウカラ、メジロ等の樹林性の種、ヒバリ、セッカ等の草地性の種が確認された。また、外来種であるホンセイインコも確認された。

確認された種は大部分が留鳥であるが、ツバメ、イワツバメといった夏鳥も確認された。繁殖が確認された種としては、ヒメアマツバメ、ヒバリの 2 種が確認された。

表 9.4-10 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度		平成 26 年度				
				秋季	冬季	春季	夏季	初夏	秋季	
1	ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○	
2	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	○		○	○	○	○	
3	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○	○	○		○	○	
4	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○						
5	スズメ目	モズ科	モズ	○	○				○	
6		カラス科	オナガ	○			○	○	○	
7			ハシボソガラス	○	○					
8			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	
9		シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	
10		ヒバリ科	ヒバリ	○		○		○		
11		ツバメ科	ツバメ				○	○		
12			イワツバメ					○		
13		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	
14		エナガ科	エナガ	○						
15		メジロ科	メジロ	○	○	○	○	○	○	
16		セッカ科	セッカ					○		
17		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	
18		ヒタキ科	シロハラ	○						
19			アカハラ	○						
20			ツグミ	○	○					
21			ジョウビタキ	○	○					
22		スズメ科	スズメ	○	○		○	○	○	
23		セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	
24			タヒバリ	○						
25		アトリ科	カワラヒワ	○	○	○	○	○		
26			シメ	○	○					
27		ホオジロ科	ホオジロ	○		○	○	○		
28			カシラダカ	○						
29			アオジ	○	○					
30		ハト目	ハト科	カワラバト	○	○				
31		インコ目	インコ科	ホンセイインコ	○					
計		5 目	19 科	31 種	28 種	17 種	12 種	13 種	17 種	12 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.4-11 に示す 5 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.4-12(1)に示すとおりである。

表 9.4-11 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ				NT
2	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ				VU
3	スズメ目	モズ科	モズ				VU
4		ヒバリ科	ヒバリ				VU
5		エナガ科	エナガ				NT
計	3 目	5 科	5 種	0 種	0 種	0 種	5 種

注) 選定基準

- ① 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）、調布市文化財保護条例（平成 18 年調布市条例第 46 号）に基づく天然記念物
- ② 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③ 「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT: 準絶滅危惧
- ④ 「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の北多摩に該当する掲載種
EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

表 9.4-12 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ヒメアマツバメ</p> <p>【分布】：本州（関東南部以西）、四国、九州で留鳥。</p> <p>【形態】：主に平地から低山地の開けた場所に生息し、飛翔性昆虫類を食べる。コンクリートの建築物などで営巣する。イワツバメの巣を利用することが多い。</p> <p>【確認状況】：冬季を除く全季に上空を飛翔する個体が確認された。また、計画地周辺の人工構造物に巣が確認され、初夏には営巣も確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：チョウゲンボウ</p> <p>【分布】：北海道、本州（中部以東）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地周辺の公園上空で飛翔する個体が確認されたが、計画地及びその周辺での営巣は確認されなかった。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：モズ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・は虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季及び冬季に計画地周辺の広葉樹林や草地で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒバリ</p> <p>【分布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥または漂鳥。四国、九州では留鳥。</p> <p>【形態】：草地、耕作地などに生息し、植物の種子や昆虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季を除く全季に計画地周辺の公園上空や調布飛行場敷地内で飛翔する個体が確認された。また、初夏には巣が確認され、雛も確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：エナガ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の樹林などに生息し、昆虫類やクモ類を食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地周辺の広葉樹で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、は虫類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、は虫類の注目される種は確認されなかった。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、両生類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(オ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-13(1)～(4)に示すとおり 11 目 90 科 240 種の昆虫類が確認された。

調査範囲は図 9.4-1 (p126 参照) に示すとおりであり、計画地とその周辺地域として東京スタジアム (味の素スタジアム) 及び西競技場の敷地内とした。確認された昆虫類は、主にウスモンミドリカスミカメ、ハリカメムシ、モンキチョウ、ナミテントウ、ヒメハラナガツチバチ等の草地性の種のほか、カネタタキ、エサキモンキツノカメムシ、ゴマダラチョウ、アカアシノミゾウムシ等の樹林性の種も確認された。また、コルリアトキリゴミムシ、クモガタテントウ等の外来種も確認された。

表 9.4-13(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
1	トンボ目(蜻蛉目)	トンボ科	シオウトンボ				○		
2			ウスハネトンボ				○		
3			アキアカネ					○	
4	ゴキブリ目(網翅目)	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○		○	○	
5	カマキリ目(蟷螂目)	カマキリ科	オオカマキリ				○		
6	ハサミシ目(革翅目)	マルムネサミシ科	キアサハサミシ		○				
7	ハナバチ目(直翅目)	ツムシ科	ツムシ			○			
8		キリギリス科	ヒメギリス			○			
9			ヒカシキリギリス					○	
10		マツムシ科	アオマツムシ				○	○	
11		コオロギ科	ハラオホコオロギ					○	
12			ツツレサセコオロギ	○				○	
13		カネタケ科	カネタケ	○				○	
14		ハナバチ科	ショウリョウハナバチ			○		○	
15			ヒナハチ			○			
16			ショウリョウハナバチモドキ					○	
17		オシロイハナバチ科	オシロイハナバチ			○		○	
18		ヒシハナバチ科	ハラヒシハナバチ			○			
19		カミシ目(半翅目)	ウンカ科	ゴマウンカ				○	○
20				コブウンカ			○		
21			アホハハコロモ科	トビイロハコロモ				○	
22			マルウンカ科	クサビウンカ			○		
23			ゲンバウンカ科	ヒラタゲンバウンカ				○	○
24			セミ科	クマゼミ					○
25	アブラゼミ							○	
26	ツクツクホウシ							○	
27	ミンシゼミ							○	
28	アワキミ科			ハマアワキ				○	○
29	トゲアワキミ科		ムネアワキ		○				
30	ヨコバエ科		スズキメヨコバエ	○					
31			アカスリヨコバエ	○					
32			ツマクロオヨコバエ	○	○				○
33			オオヨコバエ		○				○
34			トカリヨコバエ		○			○	
35			ホシメヨコバエ	○					
36				<i>Oncopsis</i> 属	○				
37				<i>Pagaronia</i> 属		○			
38				シロミヤクイチモンジヨコバエ				○	
39				クロサシヨコバエ			○		
40				マダラヨコバエ		○			
41				ホシヨコバエ				○	
42			サシガメ科	シマサシガメ			○		
43			ゲンバハムシ科	ウチワゲンバハムシ				○	
44				アワタチウゲンバハムシ		○			○
45	カスミカメシ科		ツマクロアオカスミカメ					○	
46				<i>Campylomma</i> 属	○				
47				ハキメンカスミカメ				○	○
48				ウスモンミドリカスミカメ	○				
49	ホシカメシ科	クロホシカメシ				○			
50	ホソハラカメシ科	ホソハラカメシ				○			
51	ハラカメシ科	ホソハラカメシ		○		○			
52		ハラカメシ	○						
53	ヒメハラカメシ科	アカヒメハラカメシ		○					
54		ブチヒゲヒメハラカメシ		○					
55	ナカカメシ科	ヒメオオナカカメシ			○				
56		ヒメナカカメシ		○		○	○		
57		ヒゲナカカメシ					○		
58		ヨツボシヒョウタンナカカメシ					○		
59		オオナカカメシ					○		
60	ツノカメシ科	エサキモンキツノカメシ	○	○					
61	ツチカメシ科	チビツチカメシ			○				
62		ツチカメシ			○				
63		マルツチカメシ			○				
64	カメシ科	ブチヒゲカメシ					○		
65		キマダラカメシ			○		○		
66		シラホシカメシ					○		
67		エビイロカメシ			○		○		
68		クサキカメシ				○			
69		チャハネオカメシ		○	○	○			
70		アミメカゲロウ目(脈翅目)	クサカゲロウ科	ヤマトクサカゲロウ	○	○			
71			カオマダラクサカゲロウ	○					
72	チョウ目(鱗翅目)	セリチョウ科	イチモンジセリ				○	○	
73		テングチョウ科	テングチョウ本土亜種		○				
74		シジミチョウ科	ツバメシジミ		○				
75			ウラナシジミ					○	
76			ベニシジミ		○	○		○	
77		ヤマトシジミ本土亜種			○	○	○		

表 9.4-13(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度	平成 26 年度					
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季		
78	チョウ目(鱗翅目)	タテチョウ科	ツマク ^ロ ヒョウモン				○	○		
79			ヒメアカタテハ				○			
80			ゴ ^マ ツチヨウ				○			
81		アゲハチョウ科	アオスジ ^{アゲ} ハ		○		○			
82			ナミアゲ ^ハ		○	○	○			
83		シロチョウ科	モンキチョウ				○	○		
84			キタキチョウ				○	○		
85			モンシロチョウ		○	○	○	○		
86		ジ ^ン ノメチョウ科	ジ ^ン ノメチョウ				○			
87			サトキマダ ^ラ ヒカゲ				○			
88			ヒメウラナシ ^ン ノメ		○		○			
89		ツトカ ^科	ツトカ ^科				○			
90			クワノメイ ^ガ					○		
91			シロマダ ^ラ ノメイ ^ガ				○			
92			マエアカスシ ^ノ メイ ^ガ			○		○		
93			シバ ^ツ トカ ^ガ				○	○		
94			シロホ ^ビ ノメイ ^ガ					○		
95		メイ ^ガ 科	アカマダ ^ラ メイ ^ガ				○	○		
-			メイ ^ガ 科			○				
96		ジャク ^ガ 科	マエキオエ ^ダ ジャク				○			
97		スズ ^メ ガ ^科	オオスズ ^シ ハ				○			
98			ホシホウ ^シ ヤク					○		
99		カノコ ^ガ 科	カノコ ^ガ				○			
100		ヤガ ^科	タマヤガ ^科					○		
101			ミツホ ^シ キリガ		○					
102			ウンモンクチ ^ハ					○		
103			スシ ^キ ヨトウ					○		
104		ハエ目(双翅目)	ガ ^ガ ンボ ^科	ホリカワクシ ^ヒ ガ ^ガ ンボ ^科				○		
105				キイロツガ ^ガ ンボ ^科			○			
106			ユスリカ ^科	ユスリカ ^科		○				
107			ムシビキ ^ア 科	アオム ^ア				○		
108				ナミカ ^リ ケムシ ^ヒ キ			○			
109				シオヤ ^ア				○	○	
110			ツリア ^ア 科	コウヤツリ ^ア					○	
111				クロハ ^ネ ツリア ^ア					○	
112			ハナ ^ア 科	クロヒラタ ^ア			○			
113				シマハ ^ア			○			
114				ナミハ ^ア			○			
115				ナミホシ ^ヒ ラタ ^ア			○			
116	ホソヒメ ^ヒ ラタ ^ア					○			○	
117	ショウ ^シ ヨウ ^ハ エ ^科		キイロショウ ^シ ヨウ ^ハ エ		○					
-			<i>Drosophila</i> 属		○					
118	ヘ ^ッ コウ ^ハ エ ^科		ヘ ^ッ コウ ^ハ エ		○					
119	ヤチ ^ハ エ ^科		ヒゲ ^ナ ガ ^ヤ チ ^ハ エ					○		
120	クロ ^ハ エ ^科		ツマク ^ロ キ ^ン ハ ^エ		○	○	○	○		
121	メ ^ハ エ ^科		ムネ ^ク ロ ^メ ハ ^エ			○				
122	コウチュウ目(鞘翅目)		オムシ ^科	<i>Bradyceilus</i> 属		○				
123		ケウス ^コ モクムシ					○	○	○	
124		ウスアカ ^ク ロ ^コ モクムシ						○		
125		コルリア ^キ リ ^コ ムシ		○			○	○		
126		ガ ^ム シ ^科	トケ ^バ ゴ ^マ フ ^カ ムシ			○				
127		シテ ^ム シ ^科	オオヒラタ ^シ ムシ			○		○		
128		ハネカ ^シ 科	クロス ^ト カ ^リ ハネカ ^シ				○			
129			クロサ ^ビ イロハネカ ^シ				○			
130			<i>Philonthus</i> 属					○		
131		コガ ^ネ ムシ ^科	アオト ^ウ ガ ^ネ					○	○	
132			ト ^ウ ガ ^ネ フ ^イ イ					○		
133			ヒメサ ^ク ラコガ ^ネ					○		
134			チビ ^キ クワコガ ^ネ					○		
135			セマ ^ダ ラコガ ^ネ					○		
136			コア ^ノ ナムク ^リ			○		○	○	
137			ナガ ^チ ヤコガ ^ネ					○		
138			ビ ^ロ ウト ^コ ガ ^ネ						○	
139			マル ^カ タ ^ビ ロウト ^コ ガ ^ネ					○		
140			ハラ ^ケ ビ ^ロ ウト ^コ ガ ^ネ			○				
141			マメコガ ^ネ					○		
142			シロテ ^ン ナムク ^リ						○	
143			ホリケ ^シ マ ^ク ツコガ ^ネ					○		
144			ヒラタ ^ト ロムシ ^科	ヒラタ ^ト ロムシ				○		
145		タムシ ^科	ウケ ^イ ス ^ナ ガ ^タ ムシ			○				
146			タムシ					○		
147		コムツ ^キ ムシ ^科	サ ^ビ キコリ		○			○		
148			ホソサ ^ビ キコリ		○					
149			コガ ^タ ヒメサ ^ビ キコリ		○		○			
150			クシ ^コ ムツ ^キ		○		○			
151			クロクシ ^コ ムツ ^キ		○					
152	カントウツ ^キ ミ ^ス キ ^ワ コムツ ^キ			○						
153	コハ ^コ ムツ ^キ			○		○				

表 9.4-13(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
154	コウチュウ目(鞘翅目)	ジヨウカイトキ科	ホッカシヨウカイ		○				
155			オカヘセボシジヨウカイ		○				
156		カワオアシムシ科	ヒメマルカワオアシムシ		○				
157		ジヨウカイトキ科	ヒロホシジヨウカイトキ			○			
158			キアシオヒシヨウカイトキ					○	
159		テントウムシ科	ムアシロホシテントウ						○
160				ナナホシテントウ		○			
161				マカダテテントウ					○
162				フタモンクロテントウ		○		○	
163				ナミテントウ	○	○	○	○	○
164				キイロテントウ	○	○	○	○	○
165				ダシラテントウ					○
166				ヨツボシテントウ		○			
167				ヒメカメノコテントウ		○		○	○
168				クモカテントウ	○				
169				ヘタリアテントウ				○	
170				クロツキテントウ				○	
171				シロホシテントウ	○				
172			テントウムシカマシ科	ヨツボシテントウカマシ				○	
173		ケシキイ科	クロハナケシキイ		○		○	○	
174				クリケシキイ		○			
175				マルキマダラケシキイ			○	○	
176		アリモトキ科	ホソクビアリモトキ				○	○	
177				ヨツボシホソアリモトキ				○	
178		カミキリモトキ科	アオクロカミキリモトキ		○				
179		コムシカマシ科	トビイロクシカマシ			○			
180				ハムシカマシ					○
181		カミキリムシ科	キクスイカミキリ		○				
182		ハムシ科	アハナカミナリハムシ		○		○		
183				ツブノミハムシ	○				
184				ヒメテントウノミハムシ			○		
185				ウリハムシ				○	○
186				クロウリハムシ		○		○	
187				アオハネササハムシ			○	○	
188				ヨモギハムシ					○
189				イモササハムシ			○		
190				ハルリツツハムシ		○			
191				クワハムシ		○			
192				クロボシトビハムシ			○		
193				ルリマルノミハムシ	○				○
194				マルキハネササハムシ					○
195				タマアシトビハムシ				○	
196				ニレハムシ			○	○	
197				トウカネササハムシ		○			
198	ヒゲナガゾウムシ科		アガアシヒゲナガゾウムシ	○					
199	ホソクチゾウムシ科		ヒレルホソクチゾウムシ		○				
200	ゾウムシ科	チビヒョウタンゾウムシ		○					
201			アカアシノミゾウムシ	○	○				
202			スカリゾウムシ		○	○	○		
203			サビヒョウタンゾウムシ			○	○	○	
204			カチビコフキゾウムシ			○			
205		ハチ目(膜翅目)	ルリチュウレンジ科			○			
206	ハバチ科		シマクロハバチ		○				
207	アリ科		クロオオアリ		○	○	○	○	
208				ハリバトシリアケアリ				○	○
209				キイロシリアケアリ	○	○	○	○	○
210				クロヤマアリ	○	○	○	○	○
211				トビイロケアリ	○	○			
212				アメイロアリ		○			
213				アミメアリ		○	○	○	○
214				トフシアリ					○
215				ムネホアリ	○				
216				トビイロシワアリ		○	○	○	
217	トロボチ科		キオビチビトロボチ		○	○	○		
218	スズメバチ科		コアシナガバチ			○			
219				コカダズメバチ				○	
220	ヘッコウバチ科		キオビヘッコウ			○	○		
221	ツチバチ科		ヒメハラナガツチバチ	○		○	○	○	
222				キンケハラナガツチバチ				○	
223				シロオビハラナガツチバチ		○			
224				キオビツチバチ			○	○	
225	フシタカバチ科		ヒメツチスカリ		○	○	○		
226				マルモンツチスカリ		○	○	○	
227	アナバチ科		サトシカバチ		○	○	○		
228				アメリカシカバチ		○			
229				クロアナバチ				○	
230	ミツバチ科		ニホンミツバチ					○	
231			セイウミツバチ		○	○		○	

表 9.4-13(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
232	ハチ目(膜翅目)	ミツハチ科	キオビツヤハチ		○			
233			ニッポソビカナハチ		○			
234			ナミシモノハチ				○	
235			キムネクマハチ		○			
236		コハチ科	アカネコハチ				○	○
237			アオシハチ				○	
238		ハキリハチ科	ヒメキリハチ				○	
239			ツルカハキリハチ				○	
240		ヒメハチ科	キオビコソバトメハチ		○			
計		11 目	90 科	240 種	34 種	88 種	75 種	105 種

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.4-14 に示す 3 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.4-15 に示すとおりである。

表 9.4-14 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	ハッタ目	ハッタ科	ショウヨウハッタモトギ				VU
2	ハチ目	ハッコウハチ科	キオビハッコウ				DD
3		ミツハチ科	ナミルモンハハチ			DD	
計	2 目	3 科	3 種	0 種	0 種	1 種	2 種

注) 選定基準

①文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、東京都文化財保護条例(昭和 51 年東京都条例第 25 号)、調布市文化財保護条例(平成 18 年調布市条例第 46 号)に基づく天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種

③「レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類)」(平成 24 年 8 月 環境省)の記載種

DD: 情報不足

④「レッドデータブック東京 2013(本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)の北多摩に該当する掲載種
VU: 絶滅危惧 II 類 DD: 情報不足

表 9.4-15 注目される昆虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：ショウリョウバッタモドキ 【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島 【形態】：黄緑色や淡緑色の個体が多いが褐色型も見られる。側面には触角先端から翅端まで濃色帯が通常である。高茎イネ科草地に生息し、主にチガヤの葉を摂食する。 【確認状況】：夏季に計画地周辺のチガヤが生育する明るい草地で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：キオビベッコウ 【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島 【形態】：雌は黒色で頭部、胸部背面、触角及び足の大部分が黄褐色。腹部は第2背板基部に黄色帯があり、腹端部は黄褐色。翅は黄褐色で外縁は黒褐色。雄は黒色で全体に鮮黄色の斑紋がある。コガネグモなどの大型のクモを狩り、幼虫の食餌とする。 【確認状況】：計画地周辺の草地で飛翔する個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ナミルリモンハナバチ 【分布】：本州、四国、九州 【形態】：体は黒色で、翅は基部を除き強く褐色に曇る。体には青緑色のよく分枝した臥毛からなる斑紋ないし横帯を有するが、腹部の横帯(中央部で切断される)は毛がうすく、輪郭がぼやけた感じである。 【確認状況】：計画地周辺の植栽されたアベリアに飛来した個体が確認された。</p>	

出典：「新訂原色昆虫大圖鑑第Ⅲ巻」

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-16 に示すとおり 1 目 10 科 24 種のクモ類が確認された。

調査範囲は図 9.4-1 (p126 参照) に示すとおりであり、計画地とその周辺地域として東京スタジアム (味の素スタジアム) 及び西競技場の敷地内とした。確認されたクモ類は、造網性種のウロコアシナガグモ、コガネグモダマシ、ドヨウオニグモ等、徘徊性種のササグモ、ワカバグモ、マミジロハエトリ等が確認され、草地や公園に生息するクモ類が確認された。

表 9.4-16 クモ類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ				○	
2		アシナガグモ科	ウロコアシナガグモ	○				
-			<i>Tetragnatha</i> 属		○			
3		コガネグモ科	オニグモ			○		
4			ナガコガネグモ				○	○
5			コガネグモダマシ	○				
-			<i>Larinia</i> 属				○	○
6			ドヨウオニグモ			○		
-			コガネグモ科	○				
7		コモリグモ科	ハラクロコモリグモ		○		○	
8			カラコモリグモ		○	○		
-			<i>Pardosa</i> 属			○		
-			コモリグモ科	○				
9		ササグモ科	クリチャササグモ		○			
10			ササグモ	○	○	○		
-			<i>Oxyopes</i> 属		○		○	○
11		ウシオグモ科	クロガケジグモ			○		
12		ワシグモ科	メキリグモ		○		○	
-			<i>Gnaphosa</i> 属		○			
13			ヤマトフトバワシグモ				○	
14		エビグモ科	キンイロエビグモ	○				
15			ヤドカリグモ		○			
-			<i>Thanatus</i> 属					○
16		カニグモ科	ハナグモ				○	
17	ワカバグモ		○					
18	チュウカカニグモ				○			
-	<i>Xysticus</i> 属			○				
-	カニグモ科		○					
19	ハエトリグモ科	ネコハエトリ		○				
20		マミジロハエトリ	○	○		○	○	
-		<i>Evarcha</i> 属				○		
21		ヤハズハエトリ		○		○	○	
-		<i>Mendoza</i> 属		○		○	○	
22		<i>Neon</i> 属			○			
23		イナヅマハエトリ		○				
24	シラホシコグチャハエトリ				○			
-		ハエトリグモ科				○	○	
計	1 目	10 科	24 種	7 種	12 種	8 種	11 種	5 種

b. 注目される種

現地調査により、クモ類の注目される種は確認されなかった。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 3)地形及び地物の状況」(p.61 参照)に示したとおりである。計画地は、武蔵野台地の南西部の多摩川の左岸に沿って青梅市から立川、府中、調布市にかけて形成された立川段丘上にある盛土地であり、平坦化された人為的な改変を受けた地形となっている。

地質の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.3.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p.100 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺は、上総層群を基盤として、その上位に立川礫層、表層付近には関東ローム層が堆積している。

イ. 植生等の状況

植生等の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4)調査結果 5)植生の状況」(p.102 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺は、「市街地」の占める割合が最も多いが、計画地北側の市民西町サッカー場、朝日サッカー場、武蔵野の森公園、野川公園等には芝地がまとまって分布するほか、野川公園等には「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布している。また野川公園、武蔵野の森公園及び東京スタジアム(味の素スタジアム)にかけては、市街地の中で連続性のある緑地が形成されている。また、現地調査による計画地及び会場エリア内の現存植生の状況は、図 9.2-5 (p.104 参照)に示すとおりである。武蔵野の森総合スポーツ施設・東京スタジアム会場エリア内の現存植生は、主に東側及び西側に植栽樹林群(落葉広葉)、北側等にシバ群落がまとまって分布する以外は、概ね人工構造物で被覆されている。計画地内は、暫定駐車場として利用されていたため地表はアスファルトで覆われていたが、現地調査時点で工事に着手しているため、大部分は工事による人工裸地となっており、計画地内の植生はソメイヨシノの植栽樹林群(落葉広葉)が分布するのみとなっている。なお、工事着手前には、一般国道 20 号(甲州街道)沿いの計画地内にイチョウの植栽樹林群が存在していたが、将来的には本施設の緑化樹として活用することを念頭に、イチョウの既存樹木を場外で仮養生している。

ウ. 大気環境

大気環境の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 1)大気等の状況」(p.49 参照)に示したとおりである。

気象の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4)調査結果 6)気象の状況」(p.102 参照)に示したとおりである。計画地周辺の府中アメダスにおける年間降水量及び年平均気温の平年値(昭和 56 年～平成 22 年)は、1,529.7mm、14.9℃である。

エ. 地域社会とのつながり

計画地周辺には、武蔵野の森公園等の都市部に整備された緑地が広がっており、散歩、ジョギング、サイクリングなど多数の市民利用があり、花見など四季折々の植物や動物を身近に感じることもできる場となっている。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.4-17 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の 3 区分に分類される。これらの環境区分で見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.4-2 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではスダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチ

ヨウ等の植栽樹林、草地環境ではヨモギ、メドハギ、オギ、オオバコ、チガヤ等の草本群落、市街地等ではイチョウ、ソメイヨシノ等があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、アズマモグラ、ヒナコウモリ類の哺乳類、コゲラ、オナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ヒバリ、ムクドリ、ツバメ等の鳥類があげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等があげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く小型鳥類や昆虫類を捕食するチョウゲンボウの猛禽類があげられる。

表 9.4-17 環境区分別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		<p>計画地及びその周辺は、立川段丘に位置しており、東側を流れる野川の対岸は武蔵野台地となる。武蔵野台地側では野川の河岸の一部に斜面や崖地が見られるが、計画地周辺は平坦地であり、標高は約 40m である。</p> <p>表層土壌は、表層に関東ローム層、下層には立川礫層が堆積しているが、計画地及びその周辺は東京スタジアム（味の素スタジアム）等の人工構造物としての土地利用が大部分を占める。</p>		
環境区分別の状況		<p>樹林環境は、計画地内では北側に植栽されたソメイヨシノが該当する。計画地周辺では、西競技場の西側の緑地や道の路街路樹が該当する。</p> <p>主な植生は、道路脇にソメイヨシノが広く分布し、スダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチョウ等の植栽樹林群が分布する。</p> <p>主な動物相は樹林環境に依存するコゲラ、シジュウカラ等の鳥類、コウチュウ目、チョウ目、セミ目等の昆虫類、アズマモグラ等の小型哺乳類が生息する。</p>	<p>草地環境は、計画地に分布していない。計画地周辺では、計画地の東側に位置する野球場にシバ草地が存在する。また、</p> <p>主な植生は、シバ、ヨモギ、オギ、チガヤ等の草本が見られる。</p> <p>主な動物相は、草地環境に依存するメジロ等の鳥類のほか、オンブバッタやモンシロチョウ等の昆虫類が生息する。</p>	<p>計画地及びその周辺は、人工裸地、公園等を除くと主に住宅、官公庁施設、厚生医療施設等からなる市街地が形成されている。</p> <p>市街地は主に人工構造物で占められているが、道路沿いの街路樹や住宅の庭木等の植生が見られる。</p> <p>主な動物相は、ヒナコウモリ科のねぐら利用、ヒメアマツバメの営巣利用、チョウ類等の昆虫類やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。</p>
生態系構成要素	最上位消費者	鳥類：チョウゲンボウ	鳥類：チョウゲンボウ	鳥類：チョウゲンボウ
	上位消費者	鳥類：モズ	鳥類：モズ、ハシブトガラス	鳥類：ハシブトガラス
	中位消費者	哺乳類：アズマモグラ、ヒナコウモリ科 鳥類：コゲラ、オナガ、シジュウカラ等 クモ類：オニグモ、チュウカニグモ等	哺乳類：アズマモグラ、ヒナコウモリ科 鳥類：メジロ、ヒヨドリ、ヒバリ、ムクドリ、ツバメ等 クモ類：ネコハエトリ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥類：ヒメアマツバメ、ツバメ、スズメ等 クモ類：キンイロエビグモ等
	下位消費者	鳥類：キジバト等 昆虫類：モリチャバネゴキブリ、ゴマダラチョウ、アオマツムシ、アブラゼミ、タマムシ等	昆虫類：ツユムシ、オンブバッタ、キオビベッコウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ホソヒメヒラタアブ等	昆虫類：ツマグロオオヨコバエ、アオスジアゲハ等
	生産者	植物：スダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチョウ等	植物：ヨモギ、メドハギ、オギ、オオバコ、チガヤ等	植物：イチョウ、ソメイヨシノ等

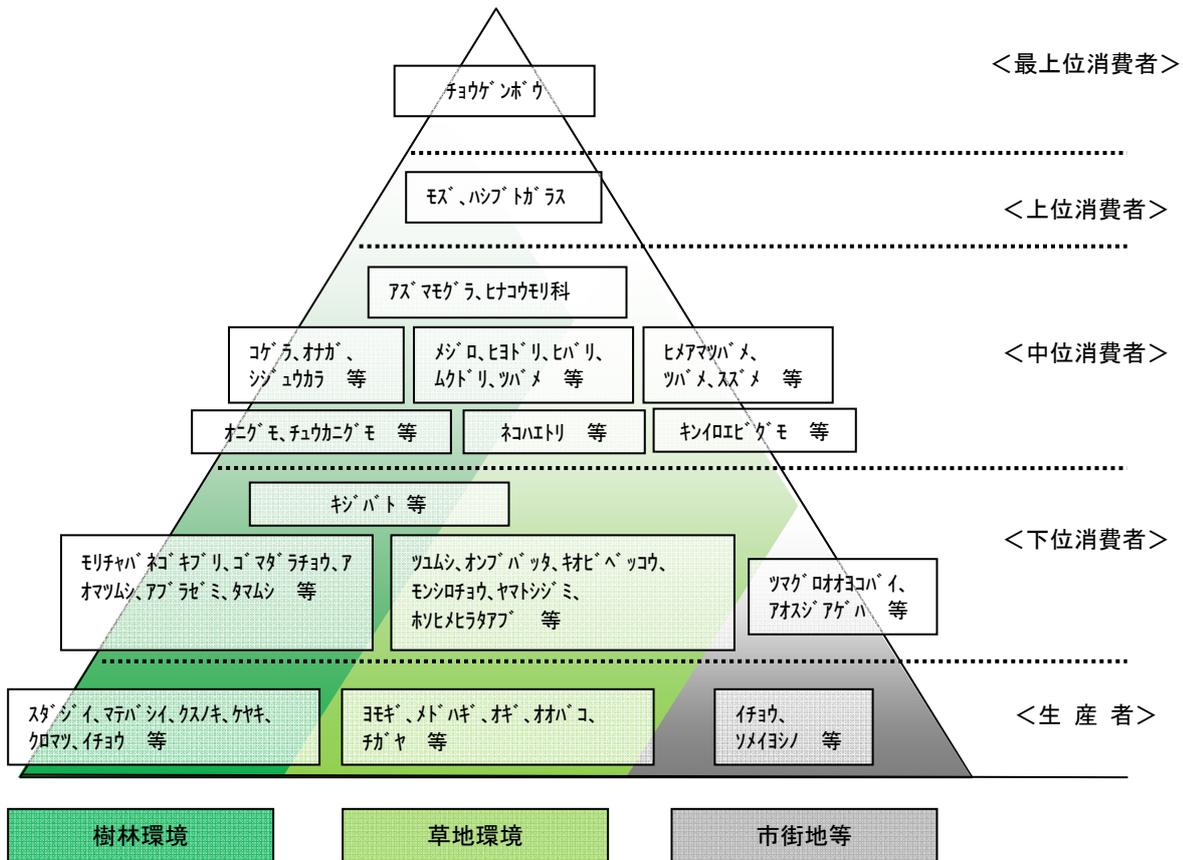


図 9.4-2 生態系の概念図

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 4) 土地利用の状況」(P. 64 参照) に示したとおりである。計画地及びその周辺の土地利用としては、主に独立住宅や集合住宅、官公庁施設、厚生医療施設等からなる市街地となっているが、計画地北側の武蔵野の森公園や野川公園等の公園、運動場等が分布している。また、計画地の大部分は未利用地となっている。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.4-18(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.4-18(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	<p>(文化財の定義)</p> <p>第二条</p> <p>四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。）</p> <p>(現状変更等の制限及び原状回復の命令)</p> <p>第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。</p>
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。</p> <p>(責務)</p> <p>第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。</p> <p>2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。</p> <p>3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。</p> <p>(捕獲等の禁止)</p> <p>第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合</p> <p>二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合</p> <p>三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合</p>
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するとともに、猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保（生態系の保護を含む。以下同じ。）、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。</p> <p>(鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止)</p> <p>第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。</p> <p>二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。</p> <p>三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。</p>

表 9.4-18(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	(目的) 第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。 (飼養等の禁止) 第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合 二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合 (放出等の禁止) 第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合 二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.4-19 に示すとおりである。

表 9.4-19 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護管理事業計画 (平成 27 年 3 月 東京都)	<ul style="list-style-type: none"> ・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護及び管理することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」を定める。 第一 計画の期間 第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項 第三 鳥獣の人工増殖に関する事項 第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項 第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項 第六 特定計画に関する事項 第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項 第八 鳥獣保護管理事業の実施体制に関する事項 第九 その他
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。

9.4.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、2020年東京大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催後とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、2020年東京大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。植物群落としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生育していないため、事業による影響はないと予測する。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動物の生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生息していないため、事業による影響はないと予測する。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動植物の生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じないため、動植物の生育・生息環境の変化の程度は小さいと予測する。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に

関わる生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じないため、生態系の変化の程度は小さいと予測する。

9.4.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・計画地南側の一般国道 20 号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。
- ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。
- ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。
- ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

9.4.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動植物の生育・生息環境となる樹林等の植物群落は計画地北側のソメイヨシノのみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。

以上のことから、生物・生態系の現況は維持され、評価の指標は満足するものとする。また、計画地南側の一般国道 20 号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用するほか、地上部のオープンスペース、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。計画地周辺には、武蔵野の森公園や隣接する西競技場の緑地に、動植物の生育・生息環境となる植栽樹林群（混交、落葉広葉、常緑広葉）の植栽が広く残存しており、計画地の緑地と一体となった生育・生息環境が形成されると考える。